

はら、はら、時雨の霽れた屋根。

迷子の鼻が、来てとまり。

ほう、ほう、啼いたら、夜が闇けた。

〔「子供達の歌」第1集「赤い橋」
所載、初放送・昭和14年10月6日〕

郷愁

さすらふ旅の 果にして、

はかなく病めば、秋の日の

思ひはとほし、夢にみる

幼きころの 故郷の家。

あ、懐しや、夢は帰る、故郷の家。

夕の月の かげにさへ

むかしの家は ほのみえて

門辺の榎、庭の柿、

響くはとほき、紡車。

あ、懐しや、夢は帰る、故郷の家。

空しく旅は かさなりて、

悲しき夢は ひとりゆく、

海山とほく、末とほく、

故郷の空の 旧き家。

あ、懐しや、夢は帰る、故郷の家。

〔「子供達の歌」第1集「赤い橋」所載〕

自分達の言葉

「子供達の歌」を、今後続刊して行くにあたって、自分

達は、かく虔しく申し出る。

子供の歌は、どこまでも子供達の心持から離れたくな

い。勿論いろいろな意味で。——時代に即して、真に日

本に育つべき音楽があるならば、先づ、子供達の歌から